

第 35 回 福島問題研究会 議事録(ダイジェスト版)

日時:平成 30 年 10 月 2 日(火)、13:00~16:00

場所:化学工学会 会議室

出席者:(敬称略)小林、橋本、郷、松井、鈴木、牛尾、伊達、戸井田、横堀、中尾(記録)、
(欠席)松田

1. 前回議事録

前回議事録(第 34 回)に対し以下のコメント追加。

橋本;資料は DropBox の“共有”ファイルに日付けと作成者を明記して格納している。

2. 関連情報紹介

(1) 化学工学会内の研究会設立総会(横堀氏、小林氏から報告)

* 10月1日、化学工学会議室にて開催。

6名の幹事(小林氏を含む)と23名の会員が登録。

* 規約について以下の議論が成された。

1)目的と提言が不明確

2)提言先にJAEAを加えることが要望された

* 研究会の名称は、「福島復興・廃炉技術研究会」とする案が有力。(松方委員長預かり)

* 研究会は規約には触れていないが2年間の時限付きと受け取れる発言があった。PJを立ち上げ活動することは意図されておらず、主として提言を目的とする会である

(2) 山本氏主宰の分科会「特殊環境課の腐食現象の解明」(鈴木氏から報告)

* 使用済み核燃料保管プールの問題:No1-No3号機では燃料保管プールの保管容量が限界に達しつつあることが議論された。現時点で問題となる理由は不明であるが、過去の燃料が保管されていた場所が手狭で、耐震性の問題もあり、今後問題が広がる恐れがある。

(3) 「トリチウム水の取扱いに係る説明・公聴会」(戸井田氏から報告)

* 8月31日に開催された公聴会の様子について報告があった。

16名から意見開陳されたが、トリチウム水放出に不安・反対の意見を述べた人は13名。

海上放出を半ば容認する立場で開かれたが、そのような方向性は示されなかった。

* 9月28日のNHK報道で、トリチウム汚染以外の物質が問題となり、振り出しに戻った。

<参考> <https://www3.nhk.or.jp/news/html/20180929/k10011648861000.html>

報道では、原発の敷地にあるタンクでおよそ94万トンが保管され、トリチウム以外にもルテニウムやヨウ素などの放射性物質が確認されている。

東京電力の説明:①満水となったタンクの水あわせて89万トンのうち、およそ84%にあたる75万トンでこうした放射性物質の濃度が基準を上回っていたと推定。②放射性物質を処理する設備の不具合で基準の2万倍近くに達しているとみられる放射性物質もある。③東京電力は事故の2年後からこうした放射性物質を処理する設備を運用してきたが、発電所全体のリスクを下げるために、濃度の基準にこだわらず運用した時期があった。④東京電力は今後、海洋や大気など環境に放出する処分を行う場合、トリチウム以外の放射性物質を水で薄めるのではなく、再び処理設備を運用して基準以下にすることを検討している。

(4) 東電2F見学会について(橋本氏から報告)

・以下の件、橋本経由で東電さんと再度調整する。

- ① 見学期：当初より遅れ、1—2 月が候補。
② 参加者は原則SCE. Netメンバーで、人数はMaxでも 20 人程度
- (5) 山田氏(放医研)講演会(郷氏から報告)
* 低線量の放射線が及ぼす人体への影響について研究
- (6) JAMSTECの見学会案内(松井氏から報告)
* エネルギー研究会が海洋研究開発機構の見学会を 11 月 29 日に計画
- (7) 福島第一廃炉全体俯瞰マップ(鈴木マップ)についての意見交換(中尾氏から報告)
* 既に提示されている廃炉工程マップについて、中尾氏がEXCEL形式で書き直し、細目について化学工学の関与が可能なものをラフに分類。
→ デブリの取り出しについては寄与は小さいが可能性はある
→ 小林コメント;むしろ、ディスクリート型プロセスの構築のためのエンジニアリング、リバーズエンジニアリングとしての体系化という観点から、新しい化学工学を創るという意識ももって業際にとらわれず取り組むべきである。
* 橋本氏から、以下の意見。
・PJの工程管理技術はケミカルエンジニアが得意とするものである。
技術内容、日程、費用を明確にした形で肉付けしていくことが重要である。
中尾氏の資料に肉付けして、WBSの形に仕上げる作業をし、まとめれば前述の学会内の研究会に提出したい。
・小林コメント;研究開発、技術開発のウエイトが重いので、(既存機能を積み重ねる)典型的なWBSとは異なるが、この部分をどう処理するかもポイント
* 鈴木俊一氏(東大特任教授)と近いうちにコンタクトして、細目の内容を確認することにより、より具体的なWBSを作成し、化学工学会の研究会にも提案し、方向性を明確にしたい。
- (8) SCE. Net20 年史作成について(横堀氏から報告)
* SCE. Netでは 2020 年に設立 20 年を迎えるが、各研究会は 2010 年からの 10 年間の活動を纏めることになった。設立以来 34 回の研究会を開催したが、経過について簡単にまとめた。
→ 活動の大きな流れを 3 つ程度に纏めておくことがポイントではないか。
1) 研究会設立までの経緯
2) 化学工学会への提言作業と成果(研究会設立に至ったことが成果)
3) 具体的な活動内容
・公開講座の運営協力
・学会での報告
・他団体との交流
・見学等による実態把握

<次回日程等>

次回予定は 11 月 19 日(月 15:00—17:00) 予定。別途メールで連絡する。

以上」